

令和6年度習志野市総合防災訓練 (大地震想定) 成果について

令和6年12月
危機管理課

総合防災訓練成果：その1

1

成 果 全 般	今年度の訓練は、「災害時の行動や活動の習得」と、市民・市役所・関係機関の連携による「自助・共助・公助の確認」及び地域間でのコミュニケーションによる「地域住民間の顔見知り関係の構築」を軸にすべての避難所で60人以上の参加を目標に実施し、全25会場において、昨年度より229人増加の合計2,699名の市民参加を得たが、その内8会場が60人以下であり、参加目標を達成出来なかった。 併せて、能登半島地震の教訓を取り入れた町会等の互助による避難所の開設・運営訓練、市として初めて、全ての会場において、ペットの同行避難をされた市民の受け入れ訓練及び地域住民の要望を取り入れた個別課目訓練を通じて、市民及び参加職員から貴重な意見を得るとともに、多くの教訓を得ることができた。
------------------	---

防災訓練の概要			
演 練 項 目	①市民初動訓練における各家庭及び地域等で活動する内容の整理 ②市職員と市民互助による避難所受付や待機場所の設置 ③避難所生活空間の開設及び防災資機材の取り扱いの習熟 ④災害時に必要となる応急救護や初期消火などの知識の習得 ⑤地区対策支部及び避難所と災害対策本部との通信確保 ⑥災害医療本部と応急救護所及び病院との災害医療に関する連携		
日 時	令和6年11月24日（日）午前9時00分～午後0時30分（3時間30分）		
会 場	25か所	市内公立小学校 16校／16校	
		市内公立中学校 6校／7校 ※第一中学校は、改修工事のため、使用不可	
		市内公立高等学校 3校／3校	
訓練項目	市民防災力 向上訓練	1 市民初動	シェイクアウト、脱出口の確保、火災予防措置
		2 地区対策支部運営	安否確認情報の集約、安否情報・避難者情報を災対本部へ報告
		3 避難所開設・運営	2段階の受付、ペットの受入、防災資機材の取扱い
		4 個別課目	応急給水・救護・手当、初期消火、防災資機材の設置等
		5 重症心身障がい者対応	自宅からの移動、偕生園の設備見学
	医療本部・ 応急救護所訓練	6 医療本部との連携	応急救護所との通信確保、患者のトリアージ、災害拠点病院等との連携 ※医療本部訓練は、市庁舎グランドフロア、 応急救護所訓練は二、七中、保健会館で実施

総合防災訓練成果：その2

2

参加機関 ・団体	国	陸上自衛隊第1空挺団第3普通科大隊、航空自衛隊中部高射群第1高射隊
	県	県企業局船橋水道事務所、県葛南地域振興事務所
	他市	千葉市消防局（ヘリコプターによる救助活動）
	市	市健康福祉部、市消防本部、環境政策課、市消防団、市企業局
	民間	東日本電子電話株式会社、東京電力パワーグリッド、日本大学生産工学部、医師会、歯科医師会、 薬剤師会、助産師会、京葉地域獣医師会、アマチュア無線非常通信連絡会、タクシー協会、 WOW!TOWN幕張、未来科学開発機構、日本災害救助活動支援隊

総合防災訓練成果：その3

3

細部訓練成果		
区 分	評価	内 容
避難所運営 訓練参加者数	継続	2, 699名：25か所（R6年度）／2, 470名：24か所（R5年度） ※5年度と比較すると参加数は229名増加しているものの、60名以下の会場有「別紙参照：P7」
	継続	580名の市職員及び関係機関の方々が参加、新規の関係機関2団体が参加（協力） ①日本災害救助活動支援隊（理事長⇒消防本部警防課：安藤主幹）によるロープ救出体験訓練 ②未来科学開発機構によるドローン操作体験訓練
会場の設定	継続	25か所とし、工事等で使用できない避難所以外は、実施 ※有事の際、どこかの避難所も開設できるように引き続き、全ての避難所を前提として訓練を継続
会場ごとの 参加状況	継続	25か所の内、23か所を5年度に引き続き会場として設定 ※13か所で増加、12か所が減少（内6か所は減少数20名以下の微小）
	改善	参加者59名以下の会場8か所において、2か所が0名～29名程度、6か所で30名～59名の参加 ※参加者が0名の会場は地区の小学校をメインとしているため、地域と調整し、会場を設定 別紙「訓練会場ごとの参加状況と分析」
市民初動	継続	地域（町会・自治会等）によって、安否確認の方法がわからないとの意見が有 ※研修会等を通じ、他町会等が実施している要領を紹介し、啓発
地区対策支部	改善	災害対策本部への報告事項について、未報告があったため、情報の掌握が遅滞した ※職員向け説明会時に、念を押して説明
	改善	昨年度に引き続き、予定時刻より早く会場を解錠し、セキュリティーが作動したため、警察とセコム対応が生起 ※職員向け説明会時に、念を押して説明及びセキュリティー作動時の解除方法を明確化

総合防災訓練成果：その4

細部訓練成果		
区 分	評価	内 容
避難所運営	継続	避難所となる体育館が2階に設置されている場合、高齢者・足の不自由な方への支援要領及び1階での対応が必要 ※学校側と検討し、高齢者等の要配慮者対応の施設を調整し、マニュアルへ反映
	継続	普段から訓練が必要であり、年一度ではなくもっと回数多く（訓練回数年に2、3回）との希望有 ※次年度以降も同様の参加型防災訓練を継続・検討、地域主催の訓練等への参加も含め調整
	改善	職員の防災資機材の取扱い能力に差異がある ※配備職員のさらなる知識向上のため、研修等の機会を増やし知識付与
個別課目	継続	初期消火、応急救護・手当については、初動時の基本的事項であり、高評価 ※今後は、ロープワーク等を取り入れより充実感のある訓練を計画 （今年度も一部地域では、ロープワークを実施、高評価を獲得）
	改善	関係機関は増加しているが、マンネリ化しているため、地域住民を集められないとの意見有 ※引き続き、災害時の行動、活動内容習得及び参加者の増加を狙いとして関係機関を増加させる
その他	継続	重症心身障がい者の避難により避難経路や地域住民との連携に課題を案出
	検討	ペット同行避難について、待機場所の環境や飼育ルール等の意見が多数有 また、ペット同行避難の方法について周知不足が散見された ※今年度の訓練結果を精査し、バージョンアップを図る

総合防災訓練成果：その5

細部訓練成果		
区 分	評価	内 容
アンケート 結果	継続	避難所運営訓練及び個別課目訓練の参加者2,699名の内、アンケート回答者1,100名から貴重な意見・課題を確認 ※23名の20代以下と188名の町会・自治会未加入者から回答 ①災害時に避難所ではこんなことをするんだと勉強になりました。 ②貴重な体験をしました。 ③1年に1回は参加してもいいと思った。 ④実際に使用する機材を見れたのは、良かったです。 ⑤慣れないところもありましたが、流れを体験できたのは良かったです。 ⑥勉強になった。 ⑦良かったです。 ⑧長い。来た人に飲み物や食べ物を配れるといいと思った。 ⑨係の人全員がやさしかった。 ⑩知らなかったことが判ってよかった。

総合防災訓練成果：その6

6

課 題		
連番	区 分	内 容
1	避難所施設の確保	受付や資機材の組み立て等の避難所運営訓練が2階の体育館で実施されたため、高齢者など階段を移動するのに苦勞していた。 ※高齢者・足の不自由な方への対応のため、1階での避難所施設の確保を調整 ※モデル避難所を設定（津田沼小学校）
2	職員の識能	①今年度の訓練は、シナリオ型として「訓練の流れ」や「アナウンス文」など統一したものを準備し、実施したが、会場により、来場者からの評価が分かれた。 また、配備職員のさらなる知識向上を目的として、訓練回数を増やすとともに、配備職員以外の職員の経験値上昇を図る。 ※配備職員以外の職員の防災訓練への参加 ②組立て方法や電源の確保要領及び各訓練統制が不十分な場面があった。 ※資機材の取扱要領の習熟及び不測時の資機材の活用方法など研修等による知識を付与
3	ペット同行避難	ペット同行避難のルールや飼養スペースの環境等について、再検討が必要である。 ※今年度の訓練結果を精査し、バージョンアップを図る
次年度市総合防災訓練への反映事項		
1. 訓練型式 今年度同様に市内全域での参加型の訓練とし、令和7年4月末までに概定 ◆①市民アンケートを踏まえた訓練の継続 ②災害時の行動や活動の習得 ③地域住民間の顔見知り関係の構築による町会・自治会の防災力を向上 2. 実施時期 令和7年11月【11／16（日）で調整中】 ◆雨や暑さを避け、市民が参加しやすい気候の時期を設定し、より多くの参加を企画 3. 訓練会場 市内26か所（予定） ◆東部体育館は使用不可		